

厚生労働省 平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」
管理栄養士・栄養士養成の「栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」検討 中間報告

特定非営利活動法人日本栄養改善学会
理事長 武見ゆかり

厚生労働省より委託をうけ、以下の目的、実施体制、スケジュールで事業を実施。

1. 事業の目的

- ・少子高齢化社会における、管理栄養士・栄養士のめざす姿を整理し、
 - ・管理栄養士・栄養士養成施設における教育カリキュラムと学位等の現状分析（含、大学院）をふまえ、
 - ・医師、看護師等、他の保健医療職のコア・カリキュラムを視野におきながら、
 - ・管理栄養士・栄養士として求められる基本的な資質・能力の整理を行い、
- ① 管理栄養士養成（4年間）、② 栄養士養成（2年間）、③ 大学院の高度人材養成（管理栄養士+2年間）について、管理栄養士・栄養士養成の「**栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの枠組み**」を提示

2. 実施体制と役割

厚労省より推薦のあったメンバーを中心に構成した親会議の下に、学会側の体制として、学会内検討会議、調査研究の実働を担う3ワーキンググループ（WG）を設置した。全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会と連携。

1) 親会議

[役割] これからの管理栄養士・栄養士に求められる資質・能力に関し、現状や将来展望をふまえた、広い視野からの意見提出・助言

[メンバー] ◎：座長 ○：副座長

- 坂田 隆（石巻専修大学理工学部教授・前学長）
- ◎鈴木 道子（山形県立米沢栄養大学学長）
- 清野 裕（日本病態栄養学会理事長・日本糖尿病協会理事長）
- 曾根 智史（国立保健医療科学院次長）
- 滝川 嘉彦（全国栄養士養成施設協会会長・滝川学園理事長）
- 武見 ゆかり（日本栄養改善学会理事長）
- 多田 紀夫（柏市医療公社柏市立介護老人保健施設はみんぐ施設長）
- 利光 久美子（愛媛大学医学部附属病院栄養部長）
- 取出 恭彦（味の素株式会社母子栄養改善室シニアアドバイザー）
- 中村 丁次（日本栄養士会名誉会長・日本栄養学教育学会理事長）
- 深柄 和彦（日本外科代謝栄養学会前会長・東京大学医学部附属病院准教授）
- 松永 和紀（科学ジャーナリスト）
- 宮原 富士子（株式会社ジェンダーメディカルリサーチ代表取締役）
- 目代 雅彦（大和市役所健康福祉部健康づくり推進課参事兼課長）
- 吉池 信男（青森県立保健大学大学院研究科長）
- ※オブザーバー 小松龍史（日本栄養士会代表理事会長）

2) 学会内検討会議

[役割] WGの進捗状況を把握し、WGと情報共有しながら適宜助言を行う。WGの検討結果等をふまえ「栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの枠組み」案の作成を担当。

[メンバー] 学会役職者、管理栄養士の教育あり方検討会委員を中心に構成。WGのオブザーバーを兼務
武見ゆかり（理事長）、赤松利恵、荒川義人、上西一弘、狩野恵美子、川久保清、川島由起子、木戸康博、酒井徹、杉山みち子、鈴木公、田中清、塚原丘美、村山伸子
※オブザーバー 小松龍史（日本栄養士会会長）

3) ワーキンググループ (WG) ○: リーダー

(1) 管理栄養士・栄養士の教育カリキュラム現状分析WG

〔役割〕 養成施設 (含, 大学院) の教育カリキュラム・学位等の調査, 個別ヒアリング, 収集資料の分析
 〔メンバー〕 朝見祐也, 奥村仙示, 木村典代, ○永井成美, 長幡友実

(2) 管理栄養士・栄養士のめざす姿分析WG

〔役割〕 親会議意見の分析, 多領域の管理栄養士の意見収集 (調査の実施), 関連他職種のコアカリ分析, 海外の管理栄養士相当の資格におけるめざす姿・資質能力の分析
 〔メンバー〕 大久保公美, 北島幸枝, 小切間美保, ○鈴木志保子, 林芙美

(3) 組織における幹部候補者育成WG

〔役割〕 幹部候補者育成に向けて, 学部, 大学院でどのような資質を形成すべきなのかを検討
 〔メンバー〕 ○川島由起子, 幣憲一郎, 寺本房子, 利光久美子, 渡辺慶子

3. 事業の実施スケジュール (予定)

2017年						2018年					
年月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親会議		第1回会議 6/20							メールにて 意見聴取	第2回会議	
学会内 検討会議	メンバー 決定	学会内 & WG 合同会議		会議	64学術 総会で 中間報 告	学会内 & WG 合同会議		会議	学会内 パブ コメ	学会内 & WG 合同会議	報告書 提出
現状分析 WG			会議	調査実施			追加調査 とりまとめ	会議			
めざす姿 分析WG			会議	調査実施			追加調査 とりまとめ	会議			
幹部候補 者育成WG			会議	調査		会議		とりまとめ会議			

4. 実施状況

1) 管理栄養士・栄養士の教育カリキュラム現状分析WG

〔調査〕: 栄養士養成施設, 管理栄養士養成施設, 栄養関連大学院における教育内容や養成する人材像等を質問紙調査により把握。

対象:

- ① 栄養士養成施設: 各地方厚生 (支) 局の登録施設のうち, 専門学校を除く4年制大学11校, 短期大学 (2年制) 103校, 専攻科 (3年制) 8校の合計122校。
- ② 管理栄養士養成施設: 各地方厚生 (支) 局の登録施設のうち, 4年制大学137校, 専門学校7校の計144校。
- ③ ②のうち, 栄養関連大学院を設置している大学85校。

方法:

一般社団法人全国栄養士養成施設協会に協力を依頼し, 同協会会長および日本栄養改善学会理事長の連名の依頼状を, 各施設 (短期大学・大学) の学長宛に送付。回答者は, 各施設の学科もしくは研究科を総括する長, もしくは担当する専任教育の教員とし, 学科長あての依頼状と質問紙をセットで送付した。質問紙は, 栄養士養成施設用, 管理栄養士養成施設用, 栄養関連大学院用の3種類を作成した。質問紙への回答は無記名 (施設名の記載なし) を原則とし, 質問紙への回答と送付をもって本調査に同意したとみなした。ただし, その後に調査内容に関する問合せを了解する施設に関しては, 施設名の記載を依頼。質問紙の回答期限は, 平成29年8月31日。調査内容は表1のとおり。

調査2: 各施設のホームページ調査より得られる情報(学部・学科名称, ディプロマポリシー等)の分析を行い, 現状把握。

対象と方法:

調査1のうち, 栄養士養成施設は専攻科8校を除く114校, 管理栄養士養成施設は専門学校7校を除く137校を対象とした。大学院のホームページ, および全国栄養士養成施設協会ホームページ(各施設の紹介)より, 学部・学科名称, 養成しようとする人材の専門領域, 卒業までに身につけさせる力・態度に関して記載された情報を抽出, エクセルファイルに入力した。栄養士養成施設, 管理栄養士養成施設, 栄養関連大学院別に, 各2名のWGメンバーでそれぞれが入力を行った。2名の回答が一致している場合はその回答を採用し, 不一致の場合は, 2名の議論で回答を決定した。2名の意見が分かれた場合は, リーダーまたはオブザーバーを交えた議論を行い, 回答を決定した。以上の方法により, 漏れのないように抽出するとともに, 回答の妥当性を担保する作業を実施中。

調査3: 調査1, 2をふまえ, 特徴的な栄養学教育を実施している大学・大学院等への個別ヒアリングを実施し, 事例的な検討を予定。

表1 養成校への調査の枠組み(調査1)

連番	調査内容	栄養士養成施設	管理栄養士養成施設	栄養関連大学院
	配布施設数	122	144	85
1	名称(自由回答)	I-1	I-1	I-1,2
2	概要	入学定員	I-2	I-2
3		編入学生定員	I-2	—
4		在籍者数	—	I-2
5		博士後期課程の有無, 名称, 学位名	—	I-4
6	教育について	目指す像	II-1	I-5
7		コンピテンシー教育・修得の状況	II-2	II-3
8		学位の名称	II-2	I-2
9		導入教育の実施状況	II-3	II-4
10		臨地・校外実習の実施状況	II-4	II-5
11		専門意識等の教育の状況	II-5	II-6
12		取得可能な資格	II-6	II-7
13		卒業研究の実施状況	II-7	II-8
14		実践的研究の実施状況	II-8	II-9
15		修了に必要な単位数	—	I-2
16		担当教員数と実践栄養学分野の人数	—	I-3
17		高度専門職業人養成に対する方針	—	I-6
18		具体的教育内容と修了の必須要件	—	II-1
19		学術団体の認定資格単位	—	II-2
20	進路について	卒業(修了)進路状況	II-1	III
21	回答者属性	回答者の役職	III	IV

※ローマ数字と番号は, 各調査票の番号

2) 管理栄養士・栄養士のめざす姿分析WG

① 「親会議委員のコメントの分析」

親会議委員からのコメントや意見を、質的研究法である内容分析の手法を用いて、「めざす姿」「資質」「能力」に関するコードを抽出・整理。

② 「管理栄養士・栄養士に求められる資質・能力に関する現状分析と教育養成のあり方に関する調査」

多様な領域で現在活躍する管理栄養士・栄養士を対象に、管理栄養士・栄養士のめざす姿、求められる資質や能力、卒前教育に必要な教育カリキュラムのニーズ等を明らかにすること（調査A）および、主に教育養成機関に所属する日本栄養改善学会評議員を対象に、各人が学部教育の中で想定している管理栄養士・栄養士のめざす姿および、めざす姿の実現に向けて基本的と考えている資質・能力等について把握すること（調査B）を目的として、2種類の質問紙調査をメールにて実施。調査は無記名、回答を持って調査協力に同意とみなす。

調査Aは、管理栄養士・栄養士が活躍する主要な7分野・職域（臨床栄養・学校栄養・健康/スポーツ栄養・給食管理・公衆栄養・地域栄養・福祉栄養（高齢者・障がい者・児童））に企業を加えた全8分野・職域で活動する管理栄養士・栄養士を対象とした。対象者特性として、管理栄養士・栄養士として就業後5年以上10年未満、10年以上15年未満、15年以上20年未満、20年以上25年未満、25年以上30年未満、30年以上の者とし、各分野・職域及び年数区分で2-3名程度、計100-150名を調査対象者とした。調査への協力依頼は、日本栄養士会の協力を得て、2017年8月6日～7日に横浜で行われた日本栄養士会大会の場等を利用して行った。

調査Bは、日本栄養改善学会評議員100名を無作為抽出し、調査目的の説明及び質問紙調査への協力依頼を2017年8月に学会事務局を通じて実施。

③ 「医師、薬剤師、看護師、関連する他職種のめざす姿の検討」

医師、薬剤師、看護師の「めざす姿」（あるいは、同様と考える記述）についての情報収集。収集した情報をまとめ、管理栄養士・栄養士の「めざす姿」検討の際に参考とする。

④ 「海外の管理栄養士に係るめざす姿、資質・能力の情報収集・整理」

ICDA（International Confederation of Dietetic Associations）及び諸外国（米国、カナダ、英国、オーストラリア等）について、管理栄養士相当の資格におけるめざす姿・資質能力を分析し、管理栄養士・栄養士の「めざす姿」検討の際に参考とする。

3) 組織における幹部候補者育成WG

国公立大学附属病院の栄養部門の責任者対象の調査実施

○ 目的：メディカルスタッフ幹部候補生育成教育は、多くの職種で取り組みがなされ、中でも看護師においては、認定看護管理者制度として早期に発足し確立されている。教育の主体は何れの職種においても自身ではあるが、管理者育成においては、仕事そのものや職場の風土、理念などに留まらず自分たちを取り巻く環境に即し、社会における管理栄養士の役割や論理的な側面から幅広い視野で取り組む必要がある。

そこで、医療現場における管理栄養士幹部候補者育成に必要とされる資質と能力に対する意識について、国公立大学の栄養部門の責任者（管理栄養士）を対象に、学部卒業または大学院修士レベルの教育に対するWEB調査を実施した。本調査結果をもとに医療における管理栄養士幹部候補生育成に向けた現状の課題と改善計画を図ることを目的とする。

○ 対象と方法：平成29年7月31日（月）から平成29年8月15日（木）にかけて、以下の国公立大学病院へメール配信にて調査を実施。

1) 国公立大学附属病院 80 施設の栄養部門の責任者（管理栄養士）

2) 国立大学病院 42 施設 公立大学病院 8 施設 私立大学病院30 施設

○ 調査内容：①基本情報（病床数、年代、役職、業務権限、学位、管理栄養士歴、栄養部門長歴）、

②管理栄養士における幹部候補育成において求められる知識や能力（社会制度、管理栄養士等の歴史と制度、経済的視点と病院貢献、労務管理、業務管理、研究）、

③管理栄養士における幹部候補育成における教育内容として②の各項目の必要性

○ 回収率：全大学病院 76 施設（80 施設中） 回収率95%